
=== 日程第3 一般質問 ===

議長（村松 積） 日程第3、一般質問に入ります。

今回は6番、宮嶋清伸君、1番、小池昌人君、3番、金田憲治君、2番、串原寛治君、4番、宮嶋怡正君、以上5名から通告されております。

宮 嶋 清 伸

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、質問を許します。登壇願います。

6番（宮嶋 清伸） 6番、宮嶋清伸です。

今回、私は、全国から注目される、聞くところによりますと明日「みのもんたのサタデーばっと」に村長が出演するそうですが、ますます視察が増えると思います。

そんな下條村の教育に充実施策と今年度試験的に導入したディスポージャーについて質問するものであります。

まず、はじめに教育の充実施策について質問します。

本年度下条小・中学校では、脅迫文により児童、生徒、PTA、教職員はもとより地域住民、警察関係者が振り回され、小学校では運動会の延期、中学校の清明祭では、PTA役員による嚴重な警備の中の開催と大変な年でした。

6月議会の折り、私の提案した安心安全メールがやっと小学校でスタートしたものの、中学校ではいまだ検討中と学校、PTAの対応の遅さに不安はありますが、教育委員会をはじめ、村当局、駐在さん、地域の方々のご努力により、子供たちが安全に登校できることに感謝するとともに、何事も起こらないことを期待するものです。

さて、昨年度に引き続き本年度も行われた全国学力テストについて、下条小・中学校はその結果に対し、どのように各児童、生徒の学力、学習状況を把握し、児童生徒の教育指導や学習状況の改善を図っているかお聞きします。

この件につきましては、公表する、しないと各地域により対応が異なり、議論もさまざまですが、私はこのテストにより教職員が指導方法を校内で議論するきっかけにしたいと思いますが、どのような対応をしているかお聞かせ願います。

続きまして、今年度導入した頭を育てる算数ソフトについてお聞きします。

私の周りでは、数名の低学年と保育園児が学習ソフトを利用しておりますが、いずれも

ゲーム感覚で取り組み、100点を取ると大喜びし、褒めてやるとステップアップした問題へと取り組み、一つも二つも上の学年の問題にチャレンジしています。

しかし、このパソコンのない家庭もあり、皆が平等で利用できないのも現実です。学校でも教職員が教育ソフトに取り組む余裕もない状態のようですが、そこでこのソフトが子供たちにどのように利用され、図書館での貸し出し状況、学校等での使用状況、利用したことにより何らかの成果が出ているかお聞きしたいと思います。

次に、今年度導入したディスポージャーについてお聞きします。

まだ導入して3カ月経過したばかりですが、どのような状況になっているかお聞きします。

ディスポージャーを利用することは、利用者の利便性だけでなく、現在深刻な問題になっている地球温暖化対策にも大きくかかわるものです。

このところ灯油も値下がりしてきましたが、経費の面でも利用価値があると思われれます。そこで現在導入しているディスポージャーを利用しているところの合併浄化槽の水質状況、汚泥の蓄積状況にお聞かせ願います。

また、先ほど述べましたが、地球温暖化対策ということで、今後の取り組みについて、特にメゾンの導入についてどのようにお考えか村長のご意見をお聞かせ願います。

以上で終わります。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 6番議員の質問にお答えいたします。

まず最初に全国学力テストについてでございます。

学力調査は、基礎的な学力を見る問題と応用力を見る問題があるようでございます。このテストで判断できるのは、子供の持つすべての学力というものではないが、どの部分がこのクラス、この子供にとって苦手としているのかを分析するのが主な目的だそうでございます。

例えば計算は十分に理解しているけれども、面積等の応用の問題になると考える力が弱いとか、クラス全体や個々の分析を行っており、その部分において全体的に弱い部分があればクラス全体で、漢字の反復練習、計算の反復練習等を取り入れているということでございます。

個人の指導については、テストの返却、三者面談の折りに、その部分を指摘し克服するように指導をしておるところでございます。

下條村だけではなく全国的な傾向ではあるが、基礎学力はついてきているものの、応用力については弱い部分があるということでございます。

私はこれこういうふうに教育委員会で書いてあるんですけども、やはり全国学力テストの公表の問題が今あります。私はこれ絶対に公表しなければいけないと思います。

学力テストというのは、生徒のためにやるような気がしておるわけでございますけれども、私は先生が指導力がどのくらいあるかという、先生に対するこれも評価であろうと思います。ところが今の教育は、こちら側が閉じてしまって向こうで、そして悪平等主義でなんだかということで、理屈ばっかつけておるんですけども、本当の意味で私は大阪府知事の橋下さんみたいな過激なことは申しませんが、あの人の言うことはもっともであろうかと思えます。先生は忙しくて駄目なんですよ、児童はどうですよ、個人別でなしに学校別にも公表しないということ。これは本当に困ったものであるということと同時に、目的意識を持つには比較対象になるものがないと目的意識というのは持てないわけございまして、「我々の学校いいとこいっておるな」とか「こんなに低いのか」とか。そうしたらどこに問題があるんだということで、きちりとした目標を定めて、その目標に向かってまた先生も生徒も努力していくというのが、私は常であろうかと思えますけれども、そんなことで試験として私はどうしてこれを公開しないのかな、公開もしておりますけれども、下條村どうしても公開してほしいなと思っております。

何もそれについて我々がやいのやいの言うんでなくて、それは見る人が見れば分かるということでございますので、ぜひそんなことを期待しております。

学力調査と合わせて生活態度調査においては、約9割以上の子供が朝食をしっかりととってきているということ。

相関関係については本校の中ではあまりはっきりとした結果は見えないが、全国で見ると朝食を毎日食べている子供の方が正答率がかなり高いという結果が出ておりますというようにも書いてあります。

睡眠時間については、もうこれは規律正しい方がいいというふうに書いてあります。

やはり子供のころ私自信も考えてみてもそうでございますが、平気で漫然として時間を

過ごしてしまうということでございますけれども、それはやはり学校教育の中で「お前は
このくらいの目標を立てよ」とか「お前このくらいの目標立てよ」ということの指導を今
数が少なくなっておるわけでございますので、してもらいたいなということと、先生がや
たら忙しいそうでございます。「忙しい、忙しい」でございますけれども、そうすると教
えるというより間接的な仕事が多いのかなというふうにも感じておりますけれども、とに
かく「忙しい、忙しい」でございますして、この前も私ちょっとある先生にも申し上げたん
ですけれども、私は文化会館にある会合がありました。帰りに小中学校のこの郡展があっ
て、そして月曜日だったんですけれども、見に行きましたら各校の子供いっぱい来ており
ました。その中に下條の例えばずっと見ていったんですけれども、5年生のものがあって、
非常にそばの城に対してそばの城、私どもは給食の時間にたまにそばの給食が出ると。そ
ばの城について勉強したいということで、いろいろ村の振興に大きいものを書いてありま
した。

これはすばらしいなということで、その坊やにであったもので、「全校集会の時にそれ
何か表彰状みたいな渡してくれたか」と言ったらただ担任が「あい、おめでとうござい
ましたってその教室へ持ってくれただけだ」と言うんですけれども、それは悪平等である
と思います。あれだけ一生懸命やって、まず着眼点が良かった、うまくまとめが良かった、
着眼点が良かった、よく調査した等丸打ってあります。こう評価表がついておりまして、
そこに丸打ってありましたけれども、一生懸命やったらせめてそんなことをすると平等で
ないというような形式になるか、「あいつ頑張ったな」とか、「あいつが頑張ったで俺も頑
張るよ」ということが、子供たちの間に自然に醸成するような雰囲気はどうしても作って
いかないと、そんなところで平等だ、平等だ、差別だ、差別だ、それは全然そんなことでな
くて、教育というのはやはり実社会に出たときに、きっちりとしたソフトランディングの
できるような心の強い子供に育ててやるということも、目標であろうかと思しますので、
あまり教育の分野については行政は生々しい話はしていけないということで、だいが変わ
ってまいりましたけれど、まだそんな風潮がある中でございます。

そういうことで、私自身としてはもうこんなものはフランクにして、そして下條中学校
いいぞとか、下條小学校いいぞとか、いやちょっと落ちるな、もうちょっとみんなで頑ば
らにやいかんじゃないかというような機運を作っていただきたいと思っております。

教育、算数ソフトの問題でございますけれども、クラスにより違いますが、一週間に1時間、1カ月に2から4時間、不定期で今までに10時間と利用時間はまちまちではあるが、パソコン教室を利用し、下條算数ソフトの利用をしてきたということでございます。

利用の内容につきましては、ドリルの時間や単元の終わりの復習、担任出張時の自習時間に行っております。また、村の図書館においても希望者はこのソフトを利用できるようにしてあり、導入してから延べ人数で262人の利用があったそうでございます。

3学期からは有料で希望者を募り、飯田ゆめみらいICTカレッジの協力で「頭を育てる算数ソフト」のトレーニング教室を村民センターを利用し、毎週水曜日の第1・第3土曜日に開催していく計画でございます。

成果については、まだ確認に及んでいないんですが、数年か先に効果が出ることを間違いないと思っております。

私感心したことは、租税教育の会議があって図書館に行きました。そうしたら子供さんたちが4人このゲームの方におりまして、3人は漫画みたいなものを見たりゲームしておりました。1人、保育園の年長か小学校1年の子供が1人でこうやって丸がでたりこうしてぽつぽつとやっておりました。

あの姿を見て、このシステムは例え1人でもあんな子ができたということ、そしてその子がまた生徒が上がってくれば周りの子もまたやってくれるということでございまして、あれは取り組んで良かったかなと思っております。

参考資料として学校からの感想文でございますけれども、良い面としては楽しんでやっている。自分のペースで学習できるのでどの子も張り切って学習にやっている。よく知っている子供は隣の子供に教えてあげるなど、支え合う姿も見られると。算数が苦手な子供も意欲的に取り組むといういろいろあります。

それから問題点としては、活用する時間を確保するのが難しい。計算練習、ドリル学習としては良い。自分の考えを説明する力を授業でつけつつ、平行してやっていくことで力が伸びるだろうということ。単独で飽きてくる子供もいるということ、自分の考えの道筋が残らない、鉛筆、ノートを用意しているやる必要もあると。問題によってはとここに括弧してあります。

使用の仕方でございますけれども、1人1枚ずつの学習カードを持っていて、学習した

日に1回目2回目3回目の点数、先生からのサインが記入できるようになっているそうでございます。その日に学習したところを記入し、学習の足跡として残すというようなことも書いてあります。

それからディスプレイでございませけれども、中間報告でございませけれども、調査結果でございませ。平均生ごみの投入量が1日平均790g、これは5戸の平均でございませ。投資度が大きな変化がないということ。汚泥発生量が微増ではあるが、特に大きな変化はないということ。水質検査はBOD、全窒素は良好であったということで、中間のまとめとして、排水の量が増えることで水質の低下も予想したが、pH・透視度はあまり変化がなく、汚泥の量も著しく増えることはなかったと。設置後のBODは、全平均で4.6%、全窒素は平均で10.6%下がり、良い数値が出たということ。

ただし、一部の浄化槽からは何度か臭気、泡などが発生が見られたということ。また、貝殻・卵の殻と思われる粉砕したくずが管路のコーナーの一部に堆積を確認したということでございます。

利用者のアンケートからは、「使い勝手がよく、流し台の環境が大変良くなった」との感想が寄せられ、特に問題になるようなことはなかったということで、以上のような段階で4ヶ月間の結果では特に設置したことによる悪影響は確認できなかったわけでありませ、費用面では新たにシステム一式を設置するということございませして、ディスプレイ等の機械購入費や設置費、維持費などとしてポンプ1台を設置しなければならないということで、電気料や保守点検料等の負担が当然発生することございませ。

機器が約40万円、電気料がつきに1,330円くらい、保守点検が想定では1回2千円程度、年3~4回ということ。水道料が当然若干かかるということございませ。

中間決算では、総じて良好という結果が得られたわけでありませ、汚泥発生等についてももう少し長期にわたる試験が必要であり、引き続き調査をしながら、今後の方向を検討していきたいと思っております。

参考として、機械設置工事費が40万7千円、モニター補助、モニターとして補助が20万7千円出ませ。村より補助金が10万円、差引個人負担が10万円ということございませして、宅内工事においては若干かかるかなということと、今度の第11メゾンについては電源、コンセントとそれから配管は一緒にしての工事ということ今進めておるとこ

ろでございます。

以上で宮嶋議員に対する答弁とさせていただきます。

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸議員、よろしいですか。

6番（宮嶋 清伸） 答弁の中で教育ソフトを入れたことによる成果は出てきているなどというようにところなんですけれども、やはりパソコンの斡旋というところでなかなかその行政がパソコンを斡旋するというようなことは難しいとは思われるんですけれども、パソコンがないことによって個人差というのも出てしまうと思うんですけれども、図書館の方でのパソコンを貸し出すだとか、非常に古いようなパソコンを格安に斡旋するというようなことは考えられないかお聞きしたいと思います。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） その問題もありまして、今教育委員会でもやっておらん。今答弁は別でございますけれども、やはり大事なことだと思います。

そういう入り口から格差がつくということは問題があるわけございまして、今言うように相当安いのもあると思いますので、教育委員会、私どももやらにやいけないんだけど、どういうことだった。教育委員会、今日この際ひとつ改めてやって、私どももやるということで、どっかその専門ショップが。そんなものもまたネットで引いてみて、皆さんまたご協力いただきたいと思います。

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君。

6番（宮嶋 清伸） その件につきまして、先ほど村長の述べられた、答弁の中にあっただすけれども、やはり小さい子供が集中してやるということで、たまたまこの間中学校の会議がありまして行ったら、中学校だとなかなか基礎ができていないんで、ぼっとやるときにその中学校のレベルのものをやるというに分らんと。かといって算数からやっていくというとプライドがあってなかなかできんということがあるんで、これは小さいうちから。

特に私が見るのは、保育園の子供とか小学校の低学年ぐらいからその分らんことが分らんとというか、もう理解していっちゃうと、ゲーム感覚でやっていくというのがあるんで、またその今すぐここで福祉課の方に保育園はどうですかという意見はなかなか難しいとは思うんですけれども、それについても村長、前向きに検討していただきたいと思いますが、どうでしょうか。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） さっき保育園の生徒かな、それから小学校1年かなと思ったんですけども、聞いてみようと思ったけれども、あんまり一生懸命になってばつが出るとまたボンとやっておったもんで、聞けなかったんですけども、あの保育園もゲーム感覚で放り込んで、何かそういうことも教育委員会でよく連絡取り合ってやってもらうようにいたしますので、よろしくご理解いただきたいと思います。